

！ 警戒レベル3高齢者等避難や警戒レベル4避難指示が出たら、危険な場所から避難しましょう。

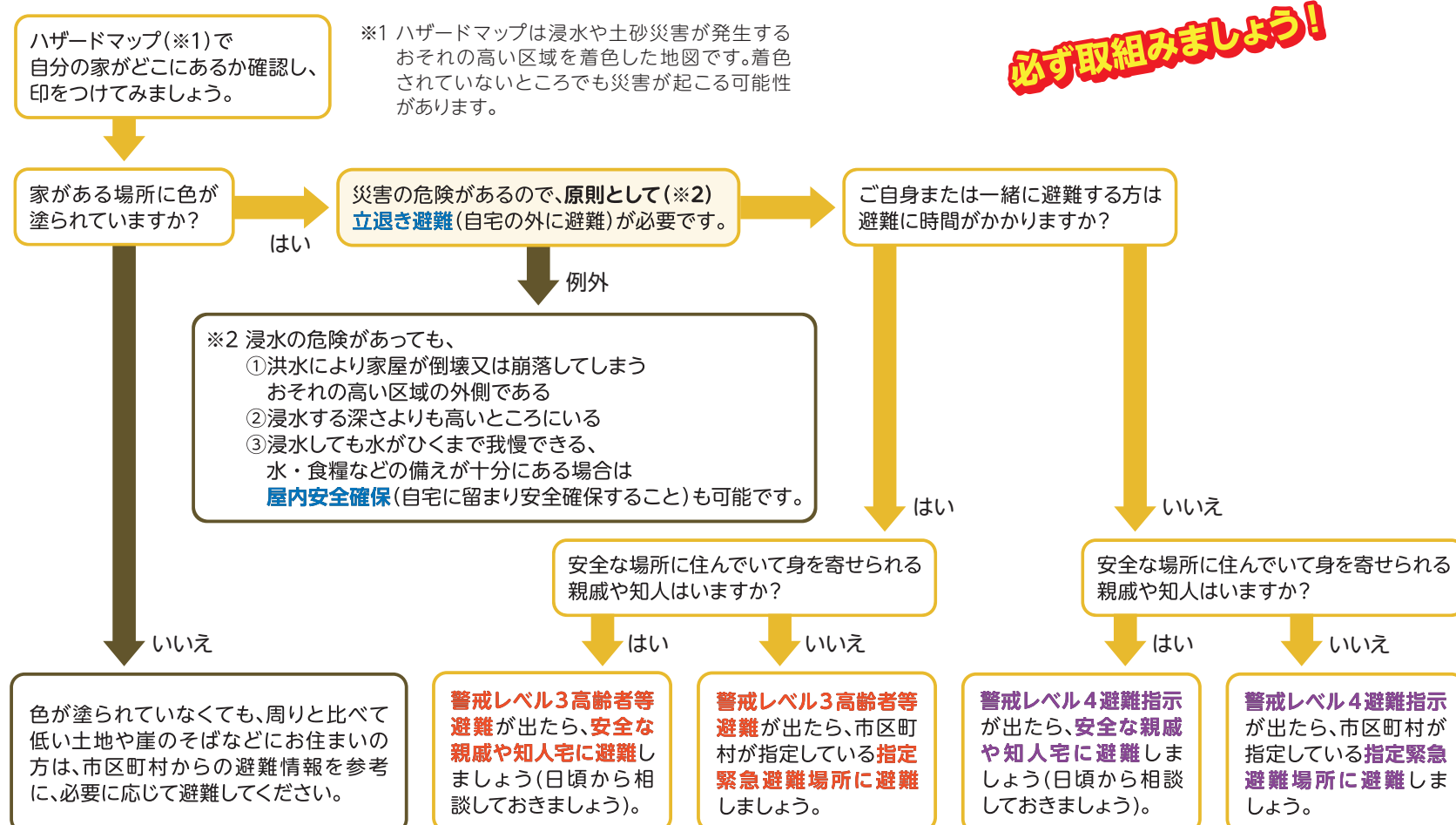
！ 避難とは難を避けることです。安全な場所にいる人は、避難場所に行く必要はありません。

！ 避難先は小中学校・公民館ではありません。安全な親戚・知人宅やホテル・旅館に避難することも考えてみましょう。

◆避難行動判定フロー

普段から確認 「自らの命は自らが守る」意識を持ち、自宅の災害リスクと、とるべき行動を確認しましょう。

●あなたがとるべき避難行動は？



自宅の外へ避難する際の留意点

！ 避難するときの服装

- ヘルメット、帽子等をかぶる。
- 非常持ち出し袋はリュックサックに入れて背負う。(両手が使えるように)
- 長袖・長ズボンを着用する。
- 軍手や手袋をはめる。
- 靴は底の厚い、履き慣れたものを着用する。
- やむをえず夜間に移動の際は懐中電灯を持つ。

！ 避難時のポイント

- 自宅を離れる前にもう一度火元を確認する。
- ガスの元栓を閉め、電気ブレーカーを落とす。
- 持ち出す荷物は最小限にする。
- 近所の人に声をかけ、複数人で行動する。
- 避難先へは、徒歩で移動する。(自動車、自転車はできる限り使用しない)
- 狭い道やブロック塀、自動販売機のそば、川べり、ガラスや看板の多い場所を避ける。
- 子ども、障がい者、高齢者など避難行動要支援者はぐれないよう配慮をしながら避難する。

上記は一般的な避難留意点です。各災害に応じた留意点も、個別ページでご確認ください。

(ページ内の図表は内閣府ホームページより抜粋、編集)

災害が発生し、家屋内にとどまることが危険な状態になった場合は、落ち着いてすばやく避難する必要があります。その際には、子どもや高齢者などの災害時要支援者の保護を念頭に置き、近所の一人暮らし高齢者世帯などにも声をかけるなど近隣で協力することが大切です。

避難に対する基本的な考え方

避難は自ら判断を

災害が迫ったとき、置かれた状況は一人ひとり違います。それぞれが自ら判断し、適切な行動を取らなければなりません。



命を守る最低限の行動とは

危険な状況のなかでの避難はできるだけ避け、安全の確保を第一に考えます。危険が切迫している場合は、指定された避難場所への移動 **①水平避難** だけでなく、**命を守る最低限の行動** **②垂直避難** が必要な場合もあります。

①水平避難

●夜間や急激な降雨で避難路上の危険箇所がわかりにくい
●流れがあり、ひざ上まで浸水している(50センチ以上)
●浸水は20センチ程度だが、水の流れる速度が速い
●浸水は10センチ程度だが、用水路などの位置が不明で転落のおそれがある
●津波が迫っていて、安全な高台に避難できない

例えば

②垂直避難 上記の場合、屋外への移動は危険です。浸水による建物倒壊の危険がないと判断される場合には、自宅や近隣建物の2階以上(土砂災害の場合は斜面と反対側の部屋)へ緊急的に一時避難し、救助を待つことも検討してください。



ペットとの同行避難

災害時、あなたとあなたの大事なペットを守るために、いま、できることを考えましょう。

◆飼い主がいま、やるべきことは？

- ワクチン接種や寄生虫の駆除など、健康面のチェックをしましょう。
- 最低限のしつけや、ケージに慣らす訓練、マイクロチップなどによる所有明示をしましょう。
- 住宅の災害対策や、フード、トイレシートなどのペットの避難セットの準備をしましょう。
- ペットの受入れ対応を含め、事前に避難場所の確認をしましょう。

◆もし被災してしまったら？

- 災害時にはペットを落ち着かせ、迷子にさせないように注意して、ペットとともに同行避難をしましょう。

◆同行避難に必要なもの

- ペットを入れるケージ(檻)、またはキャリーバッグ、えさ、容器、ペットシートなど必要物資は飼い主で準備をしてください。

！自治体の避難指示等には従う必要があります

ペットが理由で避難しないことは、自分の安全を脅かすことにつながりますので、ペットと一緒に同行避難をしましょう。

MEMO

同行避難とは、避難所までの避難行動(行為)のことをいいます。避難所で、ペットと人が同じスペースで過ごすことなどの「同伴避難」を指すものではありません。

ペット避難可能な避難所

- 菱田農村環境改善センター
- 野方農村環境改善センター

※受け入れ体制や受け入れる数に限りがありますので、避難する際は事前連絡が必要です。